

島根県ホッケー協会

—— これまでのあゆみ

「島根くにびき国体」の開催が昭和57年に決定したことを契機に、昭和49年に島根県ホッケー協会が発足した。競技会場は旧横田町（少年男女）と旧仁多町（成年男女）に決まり、ホッケー競技の強化が進められた。当時、ホッケーは島根県では馴染みの薄い競技であり、まさに初めての挑戦と言えるスタートであった。

学校ではホッケークラブや部活動が誕生し、仁多郡の行政やホッケー協会など、関係者の熱意により競技の普及が進められた。昭和62年から平成30年までの間に、仁多郡では全国大会規模の大会が延べ6回開催された。また、中学校の全国大会、全国高校総体、全国スポーツ少年団大会も実施され、いずれも好成績を収めた。

環境整備の面では、平成7年に三成公園ホッケー場に、平成14年に横田高校ホッケー場に人工芝が設置され、すべてのカテゴリーがそこで練習を行うことで競技力が向上した。平成22年には島根県ホッケー協会は、文部科学大臣より「生涯スポーツ優良団体」として表彰され、令和5年には奥出雲町が日本ホッケー協会より「ホッケータ



全国スポ少大会で優勝した横田ホッケースポーツ少年団



2度目の3冠を達成した横田高校男子

ウン」として認定を受けた。平成16年のアテネオリンピックに横田高校ホッケー部出身者が選出されて以来、令和6年のパリオリンピックまで6大会連続でオリンピックを輩出している。

—— 現在の状況

令和6年、ホッケー協会は創立50周年を迎えた。人口減少と少子化に伴い、小学生から高校生までの部員数は多くはないものの、ホッケー教室や指導者講習会を実施し、競技人口の維持に努めている。各カテゴリーにおける指導体制が整い、統一された方針のもと、指導の質も向上している。

現在、小学生から成年までが全国大会に出場するようになり、強豪県として知名度も高まった。日本代表クラスの実力を持つ選手が、他県所属を含め、数多く育成されている。



創立50周年記念式典・祝賀会

—— これから

ホッケー競技が島根のスポーツを象徴する競技として発展し続けるよう、長期的な取り組みを目指している。そのためには、競技人口の減少をいかに食い止めるかが重要である。

幼児期からホッケーの楽しさを伝え、その魅力を多くの人に広め、競技に参加できる環境を整えていく。さらに、高校、大学で活躍した選手が島根県に帰郷した後も競技を続けられるよう、島根県および奥出雲町と連携して雇用環境の整備を進めることが今後の発展の鍵となる。2030年の「島根かみあり国スポ」では、「競技別総合成績第一位」を目指し、島根のスポーツ界に大きく貢献できるよう、さらなる強化に取り組む。